

## 19. 大分県における「レンタカウ」の取り組み

農林水産研究指導センター畜産研究部

○鳥羽菜摘・木村誠司

### 【目的】

高齢化や作付け条件が悪いなど農作物の生産ができず、耕作放棄されている農地は年々増加傾向にある。この耕作放棄地を解消し、農業生産の場として復活させるため、牛の放牧は有効である。また、大分県の自然や土地条件を活かした「おおいた型放牧」は、畜産経営においても、コストや労働力の低減、高齢化対策として有効である。

一方、放牧未経験者や未経験集落では、放牧に対する不安もあることから、放牧経験牛の貸付け（レンタカウ）制度を活用した放牧体験を通じ、不安を払拭し、耕作放棄地等への放牧を促進することを目的とする。

### 【貸付方法】

振興局を窓口とし、現地に詳しい普及員が放牧に興味のある農家や集落などに対して、放牧実施についての提案を行う。畜産研究部は、借受希望者からの申請により、繁殖雌牛2頭1セットとして無償で貸出す。放牧を行う借受者は、振興局や家畜保健衛生所などの指導を受けながら、原則、1年間以内で放牧研修を行う。

### 【期待される効果】

- ・耕作放棄地管理
- ・新規就農者の確保（増頭）
- ・獣害防止
- ・畜産に関する教育の場の提供

### 【成果】

平成17年度から貸付けを開始し、平成29年度までの貸付け実績は、30件となった。

放牧することにより、雑草等の草刈りができ、獣害に対する効果もあり好評であった。

平成17年度に豊後高田市で新規就農した農家が、放牧経営を希望する者を研修生として受入れ、放牧技術の継承を行い、平成28、29年に研修終了生が新規就農者として同市内において放牧を開始している。

### 【今後の課題】

- ・放牧地の確保
- ・周辺住民（集落）等の理解
- ・放牧後の技術指導